

夢・努力・感動 ～生徒とともに～

平成30年12月20日(木)
人権・同和教育部より
1年生生徒・保護者版

みなさんこんにちは。人権・同和教育部です。期末試験も終わり、今年もあとわずかとなりました。一年前のことを覚えていますか。中学生だった自分と高校生となった今の自分を比べてみると、大社高校での新しい出会いや初めての体験を通じて、心も体も大きく成長した一年だったのではないかと思います。

さて、今回は2学期に行われた人権・同和教育HR活動について振り返ってみたいと思います。



人権・同和教育HR活動「お互いに気持ちのよい学校生活を送るために」

11月14日(水)に2学期の人権・同和教育HR活動が行われました。1年生のテーマは「お互いに気持ちのよい学校生活を送るために」でした。この活動は、1学期に実施した学校生活アンケートと今回のHR活動の直前に行った学校生活アンケートの結果をふまえて実施しました。活動の概略は以下の通りです。

- 1, 校内で実施した「学校生活に関するアンケート」結果をふまえて、現在のクラスや部活動等の状況について思いをめぐらす。
- 2, ワークシート問1(個人で記入後、グループで話し合う)
 - ①学校生活の中で経験した「人を傷つけるような言動」は何があるか。
 - ②「人を傷つけるような言動をするとき」の気持ちを考える。
- 3, ワークシート問2(個人で記入後、グループで話し合う)
 - ①「人を傷つけるような言動」をしないためには自分でどうすればよいか。
 - ②「お互いを高め合う集団づくり」のために何をすることが必要か。
- 4, グループで話し合ったことを発表し、クラスで共有する。
- 5, 本時の感想を書く。

生徒の感想より

☆今日の授業で、自分も思っている以上に人に自分が言われて嫌なことを言っているのではないかと見つめ直すことができました。友達に限らず、親などにもケンカしたときなど勢いで言ってしまって後悔することもありました。今日考えたそのような行動や発言をしないための方法を使ってみたいです。特に、自分の言葉に責任を持つという考えに納得しました。そのためにも7秒待つということも心がけていきたいです。

☆「死ね」や「消えろ」「ウザい」なんて、聞くと嫌な気分になるけど、普段の生活での会話で何気なく使っている自分がいることを改めて知りました。無意識に誰かを傷つけていたかもしれないと考えただけでも、怖かったです。友達とのじゃれ合いから冗談のつもりで使っていたけれど、これからは気をつけようと思いました。「親しき仲にも礼儀あり」のように言葉は使い方によって人を守ってあげることだって、傷つけてしまうことだってあり得るのでそこはみんなが理解して言葉を選んでいけたら良いと思います。

☆授業の中で一番感心したのは、人を傷つけるような言動をしてしまうのは、自分が弱いからだという言葉でした。自分が弱いから、他人を妬んでしまう。自分が弱いから、相手の

ことを認められない。自分が弱いから、自分をコントロールできず一時の感情に身を任せてしまう。確かにそうだなと思いました。でも、自分の思っていることを言わずに我慢しているのもどうかと思います。相手のことを理解した上で、自分の意見を伝えるということも相手を尊重するひとつの方法だと思います。

☆今日は私たちにとって身近な授業だと思いました。学校生活でも授業中でも人を傷つけるような言動をよく聞いていました。アンケートでは、単なる悪ふざけで調子に乗っているだけだから、と思い「いいえ」と答えていましたが、悪ふざけだから仕方ないで済ませてはだめでした。悪口を言った本人は何も考えずに言っているかもしれないけれど言われた人は顔では笑っていても心の中ではどう思っているかわかりません。周りの人も「のり」だといって笑うことで、もしかしたら人を傷つけているかもしれません。今まで私は流されて一緒に笑っていました。ちょっとやり過ぎではないかと思ったこともあったけどそんなに気にせず生活していました。今まで当たり前だと思っていたことが今回勉強して、改めてダメだったんだと考え直すことができました。

☆言葉の難しさを改めて感じました。表情や態度、言い方によってまったく捉え方がかわってきます。それによって相手は知らない間に傷ついているかもしれません。友達だからって何でも言っているわけではないし、していいわけじゃありません。親しき仲にも礼儀ありというように親しい者にこそ敬う気持ちを以て接していきます。SNSとかになると、表情とかもわからないので、どうとらえられてもおかしくないように正しい言葉遣いをしていきたいです。

1学期に行った学校生活アンケートでは、「学校生活において、差別的な言動や不快に感じる言葉などの場面に出会ったことがありますか」という質問に対し、「ある」と答えた1年生の回答は「1件」でした。また、今回のHR活動をするに当たっての事前アンケートでも同じ項目を尋ねたところ、やはり「ある」と答えた回答は数件にとどまっていた。しかし、実際に授業を通じて自他の言動を振り返ってみると、不快な言動が身近にあるという気づきがあったことが、みなさんの感想からわかりました。改めて考えると不快な言動なのに、それを「無意識」に「冗談と思って」使っていたことや、周りに不快な言動があっても「当たり前」に感じていたり、「気づかずに」いたり、「笑い」にしまわたりしていたことにも、思いをめぐらすことができました。そして、不快な言動をしてしまうときの気持ちについても、「イライラしたり」「ストレス」があるときなどに言動として出てしまうということも、自分のこととして考えることができました。みなさんの素直な感想から、たくさんの学びがあったことがわかりました。

先日、2学期の学校生活アンケートが行われました。同じ質問項目に対して「ある」と答えた回答は1年生で「17件」でした。これは、1学期よりも不快な言動が激増した、というよりも、身近にある自分たちの言動に対して、「不快な言動かもしれない」というみなさんの感覚が磨かれたからではないかと思います。

今回の人権・同和教育HR活動を通じて得たたくさんの「気づき」から、「不快な言動をしない」自分になるための「行動」へつなげていきましょう。「かわいそうな誰か」のためではなく、「よりよい自分」になるために、クラスの仲間、友達とともに高め合っていきましょう。そして、みなさんの教室、学校がより居心地のよいものとなるように、これからも人権感覚を磨いていきましょう。(文責：藤原智子)

